

下田歌子記念女性総合研究所 ニューズレター

No.16

2021年2月

東海市芸術劇場 嚶鳴広場 特別展示「志 三好学と下田歌子」について



専任研究員

久保 貴子

2020年7月23日(木)～8月23日(日)に愛知県東海市芸術劇場2階「嚶鳴広場」にて開催された「嚶鳴協議会ふるさと先人展 志 三好学と下田歌子」(主催・東海市)に、下田歌子記念女性総合研究所は展示協力をしました。本研究soの活動報告の一端として、この特別展示会をご紹介します。



この特別展示会は毎年開催されていて、今年で4回を数えます。本年のテーマは「第1部 桜の博士 三好学」「第2部 女子教育の先駆者 下田歌子」で、「岩村三先人」として称えられた三人(もう一人は佐藤一斎)のうち二人を同時に顕彰する、意義深い展示となりました。

この展示が行われた東海市は、江戸時代の名君として有名な米沢藩主・上杉鷹山の師、細井平洲の出身地です。会場の「嚶鳴広場」の「嚶鳴」というのは、平洲が大切に言葉で「鳥が木に集まって鳴き交うように、仲間が集まって、語り合い、学び合い、成長し合う」という意味です。そこから「嚶鳴広場」と名付けられました。東海市が全国の市町に呼びかけて、2008年嚶鳴協議会が設立され、2015年全国のふるさと先人を通して、日本人の生き方や考え方を学びあい、教えあうための情報発信基地として「嚶鳴広場」がオープンしました。下田歌子の出身地岐阜県恵那市もその協議会のメンバーで、その翌年には湯浅茂雄兼務研究員(当時、下田歌子研究所所長)が講演を行いました(「揺りかごを動かす手は世界を動かす」2016年7月9日)。

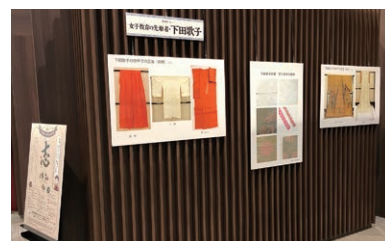
下田と同郷の三好学博士は、「桜」と「花菖蒲」の研究で世界的権威とされ、学名に「ミヨシ」と名前がつく桜が100種を超えと言われています。今回の「第

1部 桜の博士 三好学」は、恵那市教育委員会の協力のもと「桜花」と「花菖蒲」のそれぞれの代表的著作である「桜花図譜」と「花菖蒲図譜」の紹介や、自筆「学を為すは宜しく実益を主とす。彼の俗学迂儒徒に章句の間に拘泥す。嘸うべきなり」の書軸、詳細な講義録『授業日誌』など貴重な資料が展示されました。



「第2部 女子教育の先駆者 下田歌子」は、下田歌子の宮中奉仕時代から晩年までの多くの写真パネルを展示しました。「教育者」「歌人」「国文学・国語学者」「家政学者」の他に社会的弱者をサポートする「社会福祉事業家」としての一面など、多彩な顔を紹介しました。明治という新たな時代に女性の地位向上へ熱い思いを生涯にわたって抱き続けたこと、その実現のための多方面にわたる活動であったことを、この展示を通して、ご来場の方に知っていただくように努めました。

あわせて、代表歌「綾錦」の書軸(本研究so蔵)や実践高等女学校で採用していた三好学著『女子植物新教科書』(同)の展示も行い、故郷岩村への思いを伝えました。また、2019年の学園120周年事業の概要を展示することで、実践女子学園の発展した姿を紹介しました。加えて、下田歌子生誕150年を記念し、恵那市岩村町が本学園との協力の下で始めた「下田歌子賞」が、今年で18回を迎えることもパネル展示で紹介しました。



この特別展示会は、学生のみならずが見学しやすいように、例年夏休み中に開催されています。今年は、残念ながら新型コロナウイルスの影響から、入場者は例年に及ばなかったようですが、広場には密を避けながら、熱心に展示をご覧になっている方が多くいらっしゃいました。

本研究soが本学の創立者下田歌子の故郷の人々や諸機関・諸団体と連携して、さまざまな文化事業に協力していることも知っていただければ幸いです。

(くぼ たかこ 専任講師)

絵画制作で培う 主体的な学びと実践力



兼務研究員
織田 涼子

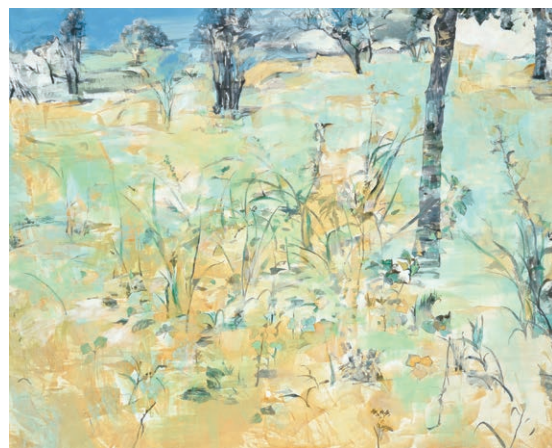
私は実践女子大学の美学美術史学科に所属し、「絵画実習」などの美術科教員免許取得に関連する実技科目を担当しています。専門は日本画制作で創画会が主催する公募展で作品を発表しています。(図1)

京都市立芸術大学在学中より「創造美術」(現創画会)の創立メンバーである秋野不矩の対談講座『日本画を語る』(なにわ塾叢書33)を読み、「秋野不矩・小倉遊亀・片岡球子 三人展 描くことこそ我が人生…世紀をまたいだ女性画家たち」(2007年)などを見て、純粋な絵を求めて美を探求してきた画家の言葉や、明治後半に生まれた女性画家たちの活動に影響を受けてきました。

特に明治大正期の美術と教育の変遷や女性画家の生き方に興味があります。自身が日頃から自由な精神で発表できる環境を持てたことは、これまでの女性画家の研鑽や美術教育が長きに渡り育んできたものがあるからだと感じます。明治大正期の女子の高等美術教育については女子美術大学歴史資料室編『女子美術教育と日本の近代 女子美110年の人物史』(2010年)に詳しく書かれています。本学の学祖・下田歌子と同時代に活躍した佐藤志津の教育や、その他美術の専門性を高めて活躍する女性について知ることができました。

仕事や社会、生活の中で役立つ知識・技術の応用力を培い「自立自営しうる実践力をもった女性の育成」は、本学園の重要な教育理念の一つです。このことに理解を深め「女性と美術」「教育と創作」について考えることは、教員を目指す学生のキャリア形成の一助になるものと考えています。制作者の立場で支援するため、学生自身が表現する手立てや絵画制作の楽しみを感じられるような教材を研究しています。

2019年度に在外研修の機会をいただき、日本画における素描の見方や岩絵具での彩色技法などを学び直し



(図1) 織田涼子「山野草」130.3 cm × 162.0 cm
「第47回創画展2020」入選 紙本着彩



(図2) 「百合を描く」 素描及び日本画の教材研究

ました。本年度は、日本画制作の実践的な活動のなかで学生が創意工夫する姿勢を持って小さな成長を実感できるよう、「百合を描く」の教材を改善しました。写真(図2)は右下にある8号サイズの日本画を制作する工程です。上段は筆者が実際に百合を見て描いたスケッチなどで、下段はそれを基に写実的に描く場合の手順を示しました。中段は絵具の溶き方を学びながら学生自身が描きたい内容を得るための試作です。彩色の構想を練ることで、日本画材料を活かした表現の見通しを立てやすい環境を作り、試行錯誤する時間を大切にしました。

絵画制作は、対象物や画材に向き合い自分なりの価値を創造する活動です。表現意図に合うよう実際に材料を使うことは困難を伴いますが、自分なりの答えを見つける手立てを発見するために行動を起こすこと自体が、美術の表現活動の目的の一つとも言えます。絵を描くこと自体に楽しみを感じると同時に、不確定の事柄に対して一歩踏み出す勇気を持つ経験となることを期待します。今後も学生自身が主体的に実行できるようサポートしていきたいと思います。

(おだりょうこ 美学美術史学科准教授)

新たな女性活躍の時代を「暮らし」から



兼務研究員

須賀 由紀子

私は生活科学部現代生活学科に所属し、心豊かな暮らしとその受け皿となる地域社会のあり方を研究対象とし、学生と市民が協働するコミュニティづくりを通して、少子高齢化・人口減少に直面する地域課題解決の姿を探求しています。

今期担当した「女性社会論b」という授業の中では「SDGs」をメインテーマに取り上げ、暮らしと社会、女性の生き方について考えてみました。SDGsは流行語の感もありますが、持続可能な社会づくりにはやはり大切です。SDGsは近年、急速に広まっていますので、その本質を理解して社会に出ることも必要です。そこで、SDGsの基本理解、SDGsと企業経営、SDGsと地方創生、SDGsと自治体、そして推進エンジンとなる国の施策など、様々な資料をもとに授業をすすめました。

その中で、「SDGsと女性活躍」をどのように捉えるか、学生に尋ねてみました。問題意識としては、暮らしを美しく、楽しく、心地よくと考える女性の生き方がSDGsのライフスタイルを作り出し、SDGs社会の推進力となるのでは、ということにあったのですが、ほとんどの学生は、「女性活躍」という言葉から、SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」のみを取り上げ、しかも、その担い手に自分になる、というのではなく、「ジェンダー平等はまだまだなので、問題だ」という、他人事の意識でした。

そこで、消費者庁の資料から、日頃の消費行動をみると女性のエシカル意識は男性に比べて高い傾向があること、一方、SDGsの認知度は女性の方が低く、女性の社会への関わり意識が強くないことが

示唆されるデータを取り上げてみました¹⁾。女性の生活感覚に根付いているエシカル意識の高さは、女性がリーダーシップを取ってSDGs社会づくりを推進する可能性を示唆しています。即ち、仕事か生活かの二分法ではなく、SDGs視点に立って、自然や文化、地域やコミュニティを大事と考える暮らし方、女性の意識こそが、新しい社会を牽引し、女性の社会における存在感も高めることが予見されます。このような考え方に対して、学生からは「女性だからこそ持てる感性や考えを存分に発揮したい」「女性がライフスタイルを牽引することで、その背中を見て育つ子どもは、SDGsやエシカル消費が当たり前となる未来へと繋がっていく」「女性が率先してSDGsライフスタイルを作り上げていくことで、今までとは違った社会ができるのではないか」との受け止めの声が多くあり、自分自身の生き方が社会を変える可能性があるというイメージにつながったようです。

こういう意識を持つ女性が一人でも増えることは、持続可能な社会づくりに大切ではないかと考えています。家政学の伝統はそれを支えます。SDGsの推進という現在の潮流の中で生活価値を捉えなおし、一人ひとりが「生活者」としての意識を高く持って、ジェンダー平等の社会を生み出していく。そこに、新しい女性活躍の姿があるのではと考えて、その裏づけができるような研究をすすめたと思っています。(すが ゆきこ 現代生活学科教授)

1) 令和元年度エシカル消費に関する消費者意識調査報告書(消費者庁、2020年)

研究叢書第1号の刊行をめざして研究会を開催 『下田歌子とその時代—良妻賢母と女子教育』（仮題）



所長
広井 多鶴子

現在、本研究所では、研究叢書の刊行をめざして準備を進めています。研究書の発行は、本研究所にとっては初めての試みです。その第1巻として、来春、『下田歌子とその時代—良妻賢母と女子教育』（仮題）と題する論文集を勁草書房より刊行することになりました。下田については様々に論じられてきましたが、これまで研究書は出版されてきませんでした。この叢書が刊行されれば、下田に関するはじめての本格的な研究書となります。

今回の企画で画期的なことは、女子教育史や日本思想史、体育学、ジェンダー論、歴史学など、様々な専門分野で活躍されている学外の研究者にご参加いただくことです。本研究所からも5名が執筆する予定です。学内外の多彩な研究分野の研究者が結集することで、多角的・学際的な視点から下田の足跡と業績を照射することが可能となります。また、本叢書では、華族女学校の体育教育、下田と津田梅子との関係、日本人教師の中国派遣、帝国婦人協会の設立過程、手芸教育、幼児教育などが研究テーマとなっており、これまで



あまり明らかにされてこなかった下田と本学の歴史が解明されます。

研究叢書の企画は昨年度から課題となっていました。学外の方に執筆依頼を始めたのは、新型コロナウイルスの感染拡大により校舎への立ち入りが禁止となった4月からでした。コロナ対策に追われる中、突然の依頼に驚かれたとは思いますが、みなさん快く引き受けてくださいました。

9月10日には、執筆予定者が集まって、日野キャンパスの多目的室にて研究会を開催しました。発表時間は1人30分ほどでしたが、



研究会は午前10時半から夕方17時頃まで続けられ、大変な長丁場となりました。初対面の方も少なくなかったのですが、共通の研究対象や課題があることから、わきあいあいとした雰囲気の中で、活発な議論が行われました。

（ひろい たづこ 人間社会学科教授）

執筆予定者と論文タイトル

（タイトルは仮題）

荒井 啓 子 (学習院女子大学名誉教授)	華族女学校における体育・スポーツ教育の先駆的展開と下田歌子
伊藤 由希子 (鎌倉女子大学)	下田歌子・女子教育の思想可能性
香川 せつ子 (西九州大学名誉教授)	下田歌子と津田梅子—西洋文化との接触と女子教育機関の創設
加藤 恭 子 (お茶の水女子大学博士課程)	明治末の日本人女子教員中国派遣と下田歌子
小山 静 子 (京都大学名誉教授)	帝国婦人協会の成立
山崎 明 子 (奈良女子大学)	下田歌子の手芸論—「手芸」による女子の自立を目指して
神木 まなみ (本学人間社会学部)	下田歌子と平塚らいてう—「良妻賢母」と「母性保護」の比較から
久保 貴 子 (本研究所)	下田歌子の女子教育
志渡岡 理恵 (本学文学部)	自立自営への道—『泰西婦女風俗』とイギリスの女子教育
広井 多鶴子 (本学人間社会学部)	下田歌子の時代—主婦と家政と家庭の構築
松田 純 子 (本学生活科学部)	「賢母」への期待と幼児教育—下田歌子の子ども観・幼児教育観—

—2020年度「内定者トーク」開催報告—

コロナ禍にあってもしなやかに逞しく～実践女子大生の就職活動～



兼務研究員

松田 純子

下田歌子記念女性総合研究所では、再編前の女性キャリア研究所(実践キャリア形成プロジェクト)の流れを受け、卒業生の就職・就業実態に関する調査研究をはじめ、女性のキャリア形成に関する幅広い研究課題にも取り組んでいます。学生の就業とその継続に向かう自己効力感や意欲を高めるための女性支援教育プログラムの開発を目指し、その一環としてスタートしたのが「内定者トーク」です。就職内定を決めた学生から、次年度以降に就職活動に臨む後輩たちに向けて、内定までのプロセスや対策など、具体的な取り組みや考え方を話してもらうという企画です。

今年度は未曾有のコロナ禍の中での就活で、新規採用を見合わせる企業や、会社説明会の中止、内定取り消しなどといった事態も生じていると耳にしました。また面接ではZoom等のテレビ会議システムが導入されるなど、就活生には例年ない対応が求められました。不安や戸惑いもあったと思います。しかしながら、我々が「実践女子」は、コロナ禍のものともせず、ピンチをチャンスに変えて、社会人への道を切り開いていました。

今年度は、都合5回の「内定者トーク」を実施しましたが、すべてZoomでの開催としました。Zoomは初めての試みでしたが、渋谷・日野両キャンパスからの参加が可能となり、これまでの対面開催とはまた異なる、気軽に参加できる雰囲気がありました。毎回2名の内定者を招き、それぞれのトークと質疑応答の時間を含め、全体で1時間のプログラムです。大学・短期大学の6学科から10名の内定者が話を

してくれました。

内定者のみなさんに共通していたことは、ポジティブに且つ柔軟に就活戦線を乗り越えていく「しなやかな逞しさ」だと思いました。各回のトークに参加した後輩のみなさんも、やる気と勇気を得て、就活に対して前向きな気持ちになれたのではないのでしょうか。そして、就活だけに目を向けるのではなく、その先を見据え、色々な人と交わり、様々な経験をして視野を広げることが力となり、よい結果へと繋がっていくのだと改めて感じさせられました。

協力をいただいたみなさんに、心より感謝いたします。

(まつだ じゅんこ 生活文化学科教授)

【トーク内容】

◎私の就活スケジュール
◎コロナ禍の中での就活は何がたいへん？
◎自分に合う企業の見つけ方* (決め手は何だったのか)
◎エントリーシート(履歴書)に何を書いたか
◎面接対策(Zoom面接で気をつけること、 答えられなかった質問など)
◎3(1)年次の過ごし方 など

*第5回公務員内定者トークでは「公務員を目指そうと思った理由」や「公務員試験に向けての勉強の仕方」

【各回の詳細】

第1回 8月7日(金) 13:30～14:30(参加学生…24名) ・生活科学部 生活文化学科 生活心理専攻4年生 (業種:メーカー(総合職)) ・生活科学部 生活文化学科 生活心理専攻4年生 (業種:生命保険(総合職))
第2回 9月18日(金) 13:30～14:30(参加学生…7名) ・短期大学部 英語コミュニケーション学科2年生 (業種:自動車・輸送機器) ・短期大学部 日本語コミュニケーション学科2年生 (業種:自動車・輸送機器)
第3回 10月23日(金) 13:30～14:30(参加学生…37名) ・生活科学部 現代生活学科4年生 (業種:住宅(リフォーム)(営業職)) ・生活科学部 現代生活学科4年生 (業種:小売業(総合職))
第4回 11月17日(火) 13:30～14:30(参加学生…16名) ・文学部 英文学科4年生 (業種:食品(総合職)) ・人間社会学部 人間社会学科4年生 (業種:財団法人(電気保安)(総合職))
第5回 12月18日(金) 12:30～13:30(参加学生…25名) ・生活科学部 生活文化学科生活心理専攻4年生 (業種:公務員(市役所)) ・人間社会学部 人間社会学科4年生 (業種:公務員(区役所))

第4回 実践の現代史・ナラティブ（語り）

「ナラティブ」の4回目は、実践女子専門学校国文科を1944（昭和19）年9月に繰り上げ卒業し、日本放送協会第16期生アナウンサーとして活躍なさった武井照子さんです。武井さんは、実践を卒業後、日本放送協会アナウンサーとして入局し、終戦を迎えました。戦後はGHQの統治下で「婦人の時間」を担当し、数多くの著名人と出会いました。その後、ディレクターに転身し、幼児番組の制作にも携わりました。また、「働く母親第1号」として、仕事と家庭を両立させながら、大変な時代を生き抜いて来られました。時代を先駆けた職業婦人でもいらっしゃると思います。

今回は、コロナ禍という状況でしたので、直接のインタビューは叶いませんでしたが、書面での質問に答えていただく形でインタビューを実現させていただきました。武井さんの実践で過ごした学生時代の様子やラジオを通して私達に伝えたかったことなどを中心にご紹介します。
（兼務研究員・日本語コミュニケーション学科教授 高瀬真理子）



■ 武井照子氏 インタビュー

たけい てるこ

1925（大正14）年埼玉県生まれ 95歳

1941（昭和16）年4月 実践女子専門学校国文科予科入学

1944（昭和19）年9月 実践女子専門学校繰り上げ卒業

卒業後、日本放送協会第16期生アナウンサーとして入局。その後、ディレクターに転身し、幼児番組の制作等を行った。

1982（昭和57）年3月 日本放送協会退職。現在は地元の朗読グループで指導に当たっている。

2020（令和2）年1月 集英社より「あの日を刻むマイク—ラジオと歩んだ九十年—」を出版した。

○どのような理由で実践女子専門学校を選んだのですか。

私は英語の語感の美しさに興味を持ち、英文学を専攻しようと考えていました。ところが、1937（昭和12）年に盧溝橋事変が起きました。国内での影響は少なかったのですが、しばらくすると、英語排斥運動なども起こる事態となったのです。そうしたことを心配されたのか、熊谷高等女学校の担任の先生は、「あなたは、国語の成績もいいのだから」と実践女子専門学校の国文科を薦めて下さいました。実践は、下田歌子という素晴らしい女性の作った学校で国文科に優れた先生がおられるからと言われたのです。私はそれに共鳴して、実践女子専門学校の国文科を選びました。

○当時の学校生活、学生の様子など、また学生時代の思い出や印象に残っている授業などを教えてください。

予科のお友達には、地方出身者が多く、入学初期の頃は、一緒に映画を見たり、餡蜜を食べに出かけたり、楽しい生活でした。学校が企画した「国文科歓迎遠足」では、神奈川県の大倉山太尾公園まで遊びに行き、先生方もゆっくりお話しすることが出来ました。その頃は、映画も新劇も自由に上演されていたので、アメリカ映画の「スミス、ワシントンへ行く」を見たり、帝劇で上演された園井恵子主演による「ファウスト」も胸躍らせて見ました。

先生方の中で記憶に残っているのは、武島羽衣先生です。その頃、みんなが歌っていた「美しき天然」の作詞者として知られていましたが、上品な風姿で、「羽衣」というお名前にぴったりでした。愉快的授業をしてくださったのは、短歌の高崎正秀先生。歌人の折口信夫を尊敬しておられ、「我が恩師、折口信夫先生は…」と口癖のように言われました。私たちの短歌についても、こんな風な批評をされました。

「『悲しき』なんて言葉は、あんたたちが使ったらおかしいんだよ。大体、あんたたちは、箸がころげてもおかし

い年頃なんだから。それが悲しき、なんて言ったら、お臍が茶を沸かすな。わが恩師、折口信夫先生が、悲しき、と言ったら、それが本当の悲しみだ。」

確かに、私たちの短歌は、先生がおっしゃる通りの少女じみたものでしたから、みんな笑い転げました。

アイヌのユーカラの研究で有名な金田一京助先生の授業も楽しいものでした。物静かで優しい先生なので、私たちは時々、石川啄木の話をしがみました。「先生、啄木の話をしてください。お願いです、啄木の話！」こういって先生は、「しようがないな。じゃ、少し、しようか」そう言って、時々啄木の話をしてくださいました。幅広ズボンで翻して颯爽と歩いた話など、金田一先生の東北風情で聞くと、啄木が身近にいるように思えて、楽しい時間でした。

ところが、間もなく起こった戦争で、こんな楽しい日々はあっけなく壊れてしまったのです。その年の12月8日、ハワイの真珠湾攻撃があり、太平洋戦争が始まりました。私たちはその後、工場へ勤労奉仕に行ったり、授業も警報で中断されるようになりました。1943（昭和18）年には、山本五十六大將が戦死され、アッツ島の日本軍が玉砕するという悲報が伝えられました。国内でも上野動物園の猛獣を薬殺し、理工系、教員養成系の学生を除く大学生の徴兵猶予が停止になり、25歳未満の女子は、勤労挺身隊として動員されるようになりました。

そして、1944（昭和19）年、マーシャル諸島、トラック島、サイパン島、グアム島と敗戦が続き、本格的な本土空襲が始まりました。そこで、専門学校（現大学）は、半年繰り上げ卒業と決まり、私も1944（昭和19）年の9月に卒業することになりました。

○アナウンサーを目指した理由を教えてください。

私は卒業後、国語の教師になるつもりでいました。しかし、当時の日本は、それが出来るような状況ではありません。どうしようかと思っている時、学校の掲示板で「放送員募集」という、日本放送協会の記事を見たので

す。私は、「放送員になったら、お国の役に立つかもしれない」と思いました。男性はみな、学業を捨て戦地に向かっています。私も何とかしなければ申し訳ないと考えました。お国のために働きたい、その一心で、アナウンサーに応募したのです。10人に1人くらいの確率だったと思いますが、私は第16期生アナウンサーになりました。そして、男性に交じり、スタジオをかけ回りました。空襲警報の鳴り渡る中、ただ懸命に働き続けました。

さらに、終戦前日の朝、アナウンス室長の浅沼アナウンサーは、深夜の短波放送を終えて戻った私たちを集めて言われました。

「日本は負けた。そして、今日正午に、天皇陛下のご詔勅が下る。」と。

そして、次のように言葉を継がれました。

「こういう時には、必ず反乱軍が起こる。彼らがやって来て、この原稿を読めと言ったらどうするか。あなたたちは、それを考えておきなさい。」

これには、誰一人、返事が出来ませんでした。すると浅沼さんは、次のように言われたのです。

「その時は、読んでいい。あなたたちは、自分の身を守ることだ」と。

敗戦の事実が、まだ知らされていない時のこと、浅沼さんはご自分の危険を顧みず、私たちに、自分の身を守ることを教えてくださいました。

実際に反乱軍は放送局へ突入して、男性アナウンサーが、その対応に当たり、女性たちとの接触はなかったのですが、一歩間違えば、命にもかかわることでした。

○働く母親第1号として、とても大変だったことと思えます。仕事と家庭との両立をどう乗り越えてこられましたか。また、どのような信念をもって、仕事を続けてこられましたか。

私は、終戦後の10月から連合軍の教育情報局の指導による「婦人の時間」のラジオ番組の司会者に抜擢されて、毎日の生放送を務めていました。娯楽などの全くない時のことですから、当時の番組は「干天に慈雨のようなものだった」と言われるほど、大切なものでした。アナウンサーになったばかりの私は、民主主義を学びながら懸命に務めました。結婚して子供が生まれるまで働くつもりでした。

ところが、主人の両親と同居することになり、子育てをしながら働くことになったのです。終戦直後は日本中が貧乏でした。お米も砂糖も醤油、味噌も配給です。冷蔵庫も洗濯機もありません。その上、主人の父母が一家

の長ですから、私は小間使いに過ぎません。あらゆる雑事が嫁の肩にかかりました。誰かが助けてくれなければ、子育て中の母親は奴隷のようなものです。それに私は商家の娘で、家事をしつけられずに育ったので、姑からの要求に応えられませんでした。

「こんな娘を育てた親の顔が見たい」と義父に言われた時は、私は家を出ようと思いました。それをしなかったのは、夫の愛情と子育てに対する責任だったように思います。間もなく、お手伝いさんを雇うことが出来、助けてくださる方もいて、何とか乗り切りました。舅姑と分かり合え、家、仕事、子育て、全部が上手くいくようになるまでは、長い時間がかかりました。

○武井さんにとって、ラジオとはどのようなものだったのでしょうか。

ラジオは言葉を伝えるものです。テレビだと目で捉える印象が強いので、話している言葉は二義的になりがちですが、ラジオは音としてとらえるので、言葉そのものがきちんと伝わるように感じます。私がアナウンサーになった時、室長の浅沼アナウンサーが言われました。「アナウンサーは消しゴムがきかないのだよ」と。

鉛筆で書いた文字は消しゴムで消すことが出来ますが、アナウンサーが言った言葉は、聞いた人の耳に残って消すことが出来ない。だから、アナウンサーはよく考えて、責任をもって口にしなければならぬのだとの注意でした。話し言葉はそれだけ重要なのだと思っています。

○最後に後輩へのメッセージをお願いします。

私は教師になろうとして、戦争のきっかけで、アナウンサーになり、それからディレクターになり、1985年につくば市で行われた国際科学技術博覧会の時の「こども劇場」のプロデューサーにもなりました。どの仕事も面白く、そこからたくさんのことを学びました。また、出会った人から得たものも素晴らしく、生きるヒントになりました。仕事というものは、追及することで面白くなり、そこから学ぶこともあります。新しい創造の芽が生まれてくることもある筈です。私が働いていた時と違って、女性が働きやすい時代になりました。これからの皆さんは、楽しみながら仕事をして、多くのことを学んでほしいと思っています。

○お忙しい中、ありがとうございました。



旧校舎の前 右が武井様



左が武井様

武井照子著
「あの日を刻むマイク
ラジオと歩んだ90年」
出版：集英社 定価・本体一七〇〇円＋税



2020年度 活動報告

研究と調査

■ 「教員キャリアの研究」

—女子大学の調査および卒業生訪問—

担当：高橋桂子兼務研究員、細江容子兼務研究員、久保貴子専任研究員

3月2日(月) 神戸女子大学 須磨キャンパス

3月3日(火) 実践桜会静岡支部長 鏡島眞理子氏宅

■ 内定者トーク (オンライン Zoom 開催)

4年生の就職内定者に、3年生以下の学生が内定までのプロセスやその対策などについて、具体的な話を聞くオンラインミーティング。

担当：細江容子兼務研究員、松田純子兼務研究員

■ 下田歌子記念女性総合研究所

『研究叢書1 下田歌子とその時代—良妻賢母と女子教育(仮)—』研究会

研究発表: 広井多鶴子所長、久保貴子専任研究員、志渡岡理恵兼務研究員、松田純子兼務研究員、他学外者5名

参加: 大川知子兼務研究員、神木まなみ兼務研究員

9月10日(木) 10:30～17:00 日野キャンパス香雪記念館多目的室A



自校教育

■ 実践女子学園新採用教員研修会

講師：久保貴子専任研究員 「下田歌子と実践女子学園」

4月7日(火) テレビ会議

日野キャンパス香雪記念館多目的室 A・渋谷キャンパス17階会議室2

■ 「佐久間ファーストイヤースカラシップ・ 下田奨学金」受賞者(1年生) 合同授与式講話

講師：広井多鶴子所長 「下田歌子の志と実践の歩み」

11月16日(月) 10:30～10:55 渋谷キャンパス 7階 704教室



下田歌子と学園資料の展示

■ 東海市芸術劇場 嚶鳴広場 特別展示「志 三好学と下田歌子」(協力事業)

7月23日(木)～8月23日(日) 愛知県東海市 芸術劇場・嚶鳴広場

■ 学祖ご命日展示

10月1日(木)～10月9日(金) 日野キャンパス本館1階

■ 常磐祭(オンライン開催)

動画「実践女子学園のあゆみと女性教育の先駆者下田歌子」を配信

日野キャンパス 11月14日(土)、15日(日)

渋谷キャンパス 12月19日(土)、20日(日)

■ 下田歌子賞表彰式

12月12日(土) 岐阜県恵那市文化センター

今年で18回目を迎えた下田歌子賞(テーマ「志」)表彰式にて特別展示

